会　議　録

<table>
<tr><td colspan="2">会　議　名
（審議会等名）</td><td colspan="3">平成 28 年度第 3 回小金井市廃棄物減量等推進審議会</td></tr>
<tr><td colspan="2">事　務　局
（担　当　課）</td><td colspan="3">小金井市ごみ対策課</td></tr>
<tr><td colspan="2">開 催 日 時</td><td colspan="3">平成 28 年 10 月 20 日（木）午後 6 時から午後 8 時まで</td></tr>
<tr><td colspan="2">開 催 場 所</td><td colspan="3">小金井市中間処理場事務所棟　研修室Ⅰ</td></tr>
<tr><td rowspan="2">出席者</td><td>委　　員</td><td colspan="3">＜出席者：14 名＞
渡辺会長・岡山副会長・大江委員・岸野委員・林委員・清水委員・多田委員・黒須委員・齋藤委員・石田委員・北澤委員・杉本委員・山田委員・吉田委員
＜欠席者：1 名＞</td></tr>
<tr><td>事　務　局</td><td colspan="3">西岡市長・柿崎環境部長・小野ごみ対策課長・藤田ごみ処理施設担当課長・石阪中間処理場担当課長・冨田・穐山・立川・佐藤・玉井</td></tr>
<tr><td colspan="2">傍聴者の可否</td><td>可</td><td>傍 聴 者 数</td><td>0</td></tr>
<tr><td colspan="2">会 議 次 第</td><td colspan="3">１　開　会
平成 29 年度一般廃棄物処理計画の諮問について
平成 29 年度ごみ・リサイクルカレンダーの表紙絵の選考について
２　報　告
燃やすごみの処理量の昨年度との月別比較について
平成 28 年度　可燃ごみ処理の支援状況について
新可燃ごみ処理施設整備・運営事業の落札者の決定について
専門委員会（未活用資源（可燃ごみに含まれる資源化可能物）の有効利用方策の調査・研究に関する小委員会）の委員指名と第１回専門委員会開催の通知について
フードドライブ事業試行実施について
３　議　題
平成 29 年度一般廃棄物処理計画について</td></tr>
<tr><td colspan="2">会 議 結 果</td><td colspan="3">別紙審議経過のとおり</td></tr>
<tr><td colspan="2">提 出 資 料</td><td colspan="3">別添のとおり</td></tr>
<tr><td colspan="2">そ　の　他</td><td colspan="3">次回開催予定
平成 28 年 11 月 22 日（火）小金井市中間処理場　事務所棟研修室Ⅰ</td></tr>
</table>

審議過程（主な発言等）

渡辺会長	これより平成２８年度第３回小金井市廃棄物減量等推進審議会を開催する。本日は、波多野委員から欠席の連絡が届いている。 それでは、事務局から配布資料について確認をお願いしたい。
玉井減量推進係主任	(配布資料確認)
渡辺会長	それでは、前回の会議録についてだが、私の発言の「微量資源」を「未活用資源」に修正して頂きたい。 他に会議録に関して修正等はないか。なければ事務局で公開手続きを執る。 それでは、西岡市長から平成２９年度一般廃棄物処理計画の諮問を受けたいと思う。
西岡市長	(挨拶・諮問) (市長退席)
渡辺会長	事務局より資料説明･報告をお願いしたい。
玉井減量推進係主任	(燃やすごみの処理量の昨年度との月別比較について説明)
佐藤ごみ処理施設担当専任主査	(平成２８年度可燃ごみ処理の支援状況・新可燃ごみ処理施設整備・運営事業の落札者の決定について説明)
玉井減量推進係主任	(専門委員会について報告)
穐山清掃係長	(フードドライブについて報告) (平成２９年度ごみ・リサイクルカレンダーの表紙絵選考)
渡辺会長	先程の説明で何か質問等はあるか。
杉本委員	「燃やすごみの処理量の昨年度との月別比較について」だが、平成２６年度の１人１日当たりのごみ排出量は幾らだったのか。
冨田減量推進係長	年間平均実績値は２８６．４ｇだ。若干減少している。
杉本委員	目標としては、燃やすごみを年間３ｇ減らすことになっている。１人１日とすると誤差の範囲だが、全体の統計で出しているので大きいと思う。市民がどれだけ減らせば良いのか指標としては良いが、どういう計画を立てるのかという時には、どこが問題なのか分らなくなるような気がする。
冨田減量推進係長	今後の審議の中で参考にさせて頂く。

審議過程（主な発言等）

岡山副会長	フードドライブについてだが、具体的にどのような物がどの位集まったのか。
穐山清掃係長	市報にも掲載したが、主な品目は、菓子、缶詰、乾麺、レトルト食品、カップ麺だ。ほとんどの品目がこの５品であり、その中でも菓子が一番多かった。缶詰が重いので総重量が増え、約１３ｋｇになった。
岡山副会長	セカンドハーベストで同じような催しをした時、欲しいものを尋ねたら米だと言われた。何故、今回米を除外したのか。
穐山清掃係長	米については、精米日しか記載がなく賞味期限を書いていないので、今回は試行ということで除外した。本格実施になった場合は、セカンドハーベストにお世話になるのであれば、検討したいと考えている。
杉本委員	フードドライブというのは、市民が缶詰などを燃やすごみとして出しているということなのか。
穐山清掃係長	年１回、職員が広域支援先で可燃ごみの中身を見ているのだが、その中に賞味期限がまだあるものや、開封もしていない食品が沢山入っている。これを可燃ごみにするのはもったいないということで、今回フードドライブを試行させていただいた。
岸野委員	今回は第１回で、今後も実施していくのか。
穐山清掃係長	今のところ試行である。色々なご意見を頂いており、福祉の観点からも関連部署と意見交換しながら、本格実施できればと考えている。
山田委員	集めたものがセカンドハーベストの先にどこへ行ったか追いかけられるのか。
穐山清掃係長	そこまではできていない。全国展開しており、組織としては世界規模だと聞いている。また、実際に全国の食に困っている人に行き届いているようだ。
林委員	先日、これはごみ対策課が扱う問題ではないのではないか、ごみとして家庭から出てくるものをフードドライブやフードバンクへ持って行こうというのはいかがなものか、ごみの削減には繋がるが福祉関係でやる話ではないのか、という内容のメールを市長に送った。その回答に因ると、今回は、できることから始めようという趣旨でごみ対策課が動いたということだ。今回の試行に基づいて次回以降を考えるようだが、ごみ対策課が音頭を取らない枠組みにしたほうが良いのではないか。ごみとしてということではなく、ごみ対策課は協力するという位置付けで取り組んだほうが良いと思うのだが、いかがか。

審議過程（主な発言等）

山田委員	発生抑制なので良いのではないかと思う。何度もリサイクルするよりも、その手前で抑制するほうが良い。
林委員	やることは良いのだが、ごみとして出すものを持って来てくださいということではないような気がする。
岡山副会長	ごみ対策課が音頭を取っても福祉課や社会福祉協議会などと協力・連携するのが良いと思う。都内では、子ども食堂や高齢者ホームでニーズが高い。
岸野委員	夏休みの生ごみ投入に携わっているのだが、その際、油や靴を集めているので、缶詰などもやれば良いと思う。缶詰なら賞味期限も長い。是非、来年に向けて検討をお願いしたい。
渡辺会長	ごみ対策課はごみになった後だけ対応するのではなく、その前段階からやるものもあって良いと思う。また、市として福祉部局と連携してやるのが一番良いのではないか。旗を振るのはどちらでも良い。
冨田減量推進係長	フードドライブの試行実施に当たって、福祉部門が受け入れ窓口であるべきだというご意見を頂いた。しかし、食品ロスという観点から、国のほうでは、消費者庁や環境省、農水省の取り組みがあり、東京都のほうでは、主に環境局から取り組みの一つとして、フードドライブ事業が推進されているという情報提供があった。ごみ対策課でもごみの減量ということから取り組んで、庁内の関連部署へフィードバックし、できることはできる所から始めていくという意味で始めた。ごみ対策課とかごみに関連する部署が集めるということに対して、貰う側の気持ちはいかがなものか、というご意見があったが、今回市報でご案内しているとおり、未だ食べられる、もったいないという観点から取り組んで頂くものである。飽くまでもごみになるものを分けてくださいというのではない。ごみになる前に家にある不要なものを、というお願いを明記しているので、賛同頂いた皆さんには、その部分をご理解の上お持ち頂いた。よって、ごみ対策課という部署が集めたものだから、ごみになるものを困っている人に差し上げるというようなものではないと考えている。ごみ対策課であっても市の職員なので、市として取り組むという点では、どの部署が旗を振ろうが、どの部署が受け皿になろうが、連携していくというところに差はないという考えで取り組ませて頂いた。
林委員	分かった。
渡辺会長	それでは、処理計画の諮問案について事務局に説明をお願いする。
冨田減量推進係長	（平成２９年度一般廃棄物処理計画の諮問案説明）

審議過程（主な発言等）

渡辺会長	それでは、林委員から事前提出資料についてコメントを頂きたい。
林委員	先ず、平成２７年度の施策の実績報告だが、各審議会委員が項目毎に進捗度と有効性に点数を付けて総合点を出しているが、判断基準がはっきりしない。評価するのであれば、評価できるような指標を明確にさせて置くべきではないのか。
冨田減量推進係長	実績報告の評価については、今後検討する。
林委員	市が自己評価しているが、C評価について議論すべきだ。また、調査研究という部分については、「随時」ではなく目標をはっきり設定すべきだ。 ２９年度の処理計画の諮問案だが、施策の中の調査研究と見直しに係る項目についても、スケジュール関係を考えると表とは別の取り組み事項として表示したほうが、実績評価も含めて相応しいのではないか。 転入者への啓発計画に施策が入っていないので議論すべきだ。ごみ処理コストの検証が「充実」になっているが、強化する必要があるのではないか。
渡辺会長	今日は、どのようなことでも良いので、コメント等を挙げて頂いて、次回以降、整理して進めていきたい。
石田委員	２９年度の計画書の１９頁「（３）廃棄物処理を支える体制の確立」の施策の所の「計画及びマニュアルの策定」の部分だが、市としてスケジュール的なものを持っているのか。それともゼロから考えるのか。
小野ごみ対策課長	国が災害廃棄物に関して、東日本大震災の後でマニュアルを作るためのガイドラインを作ったが、未だ災害廃棄物の処理計画を作っている自治体は少ない。東京都の災害廃棄物に関する処理の基本計画が出た段階で、それを参考に各市で作ることになると思う。よって、現時点で決まったスケジュールはない。４月の段階で予定としては、今年度中に策定を終わるということだが、進捗状況等は未だ明らかになっていない。
石田委員	そうすると実質上の活動は来年度になる可能性があるのか。
小野ごみ対策課長	そうだ。アンテナを張っていかなければいけない。
岡山副会長	私は、環境省の大規模災害時廃棄物対策協議会の関東ブロックの委員をやっている。ブロックの中でどのように協力するのか考えながらも、且つ市町村の計画と併せて作って行こうという感じで進めている。ただ、国がガイドラインを未だ決めていないので、去年の段階で多摩地域では、八王子市が補助を受けて災害廃棄物処理計画を作った。特

	別にやっているような状況なので、多摩地域でも、その他の市町村に広がってくるのは未だ先になると思う。
石田委員	中間処理場の予定はどうなっているのか。
小野ごみ対策課長	平成２８、２９年度予算に計上しているので、清掃関連施設整備基本計画を策定中である。２９年度末までに策定を終える。地域の方々の協力がないとできないので、慎重且つ丁寧に説明して、ご理解を頂きながら作っていきたい。
渡辺会長	実施目標は、２８年度の計画の時は、災害廃棄物マニュアルに関しては、「調査・研究」に入っていた。目標設定に馴染まないため、今回の案では、目標としては横棒表記になっている。しかし、横棒だと何もしないのかということになるので、どうすれば良いか。
林委員	国の方針を受けて動くという注釈を入れれば良いのではないか。
岡山副会長	災害廃棄物処理計画は今すぐ作ってもいいものだが、市町村ごとの状況がある。小金井市では一部事務組合の中でどう取り組むのかが大きな議論であり、３年後のことも考えて行かなければならないので、細かく注釈を付けなくても良いのではないかと思う。 今後のスケジュールはどうなのかという石田委員の話だったので、横棒になっている部分は、今年始めるかどうか分らないが挙げておこうということだ。
渡辺会長	従来の書き方ならば、「調査・研究」或いは「随時」と書かれているものに関して、横棒になっている。
北澤委員	ならば横棒は、具体的な目標の設定はできないが、情報収集等はやるという意味だということをどこかに挙げれば良いのではないか。
清水委員	基本計画には、考えられるテーマが網羅的に入っている。しかし、単年度計画では、はっきりした課題とはっきりしないがやらなければならない課題を分けて書くのが良いのではないか。
林委員	「調査・研究」という項目があるが、実施目標が「随時研究」という形でしか落とされていない。２９年度どこまでやるかということが見えてこない。よって体制を決めるとか、枠組みを決める段階とか、運用を始める段階とか、そういうことを考えた「調査・研究」のスケジュールを睨んだ書き出しにしたほうが、終わった後にどこまでできたかはっきりし、目標が終了すると施策の項目が減ってしまう。例えば、ごみ減量キャンペーン活動は施策から外れている。やるのであれば、施策として謳ったほうが良いのではないか。そういう目で見るとある程度整理できるのではないか。

審議過程（主な発言等）

冨田減量推進係長	キャンペーンとイベント出展については、１５頁で取り組みについて記載している。キャンペーンに関しては、回数を増やすことが目的ではないので、実施目標として特段掲げなくても良いのではないか。
林委員	勿論、回数自体が目標ではないが、やるということに意味があるので、回数を消化したということで一つの目標になるのではないか。
小野ごみ対策課長	やることを目標とする点においては、効果が出る、出ないという部分があるし、効果の評価の仕方も人それぞれ違ってくるという危惧がある。そういった去年の審議会委員の方々の評価を踏まえて今回出している。林委員のご意見も今回の審議会で議論して頂ければと思う。
石田委員	業務としてやらなければならないので、目標として計画を立ててやるものでない。スケジュールを目標化するのは意味がない。しかし、総括的に広報活動に因る周知として、今までにやっていたもの以外にやったことを実績として書けば良い。既存のことは、回数を書いたからと言って市民にアピールするものにはならない。ある意味で、広報活動に因るということにまとめた方が理に適っていると思う。
林委員	実績評価で見ると、去年のごみ減量キャンペーンは、回数をこなしているから進捗はＡだが効率はＣ。この辺りを議論し、何故Ｃだったのか再確認して、必要なものは表に追加していけば良いのではないか。
渡辺会長	評価をする時に何に対して評価するのかだが、基本は計画項目の評価である。一つ一つの施策ではなく、計画項目がどれだけ達成できたかが一番重要である。
林委員	例えば、ライフスタイル変革への支援ができたか、進捗したか、有効だったか。ライフスタイル変革の支援を施策として議論したときに、有効かどうか議論できてしまうものはおかしい。
渡辺会長	こういう表の書き方だと一つ一つの施策に対してどこまでできたかというところに関心が行ってしまいがちである。
杉本委員	表にこのように書かれると何が重点項目なのか出てこなくなる。１５頁の「⑴ 発生抑制を最優先とした３Ｒの推進」の中に「本市の特性として転出入者の人口移動は重要な課題のひとつです。」とある。これは、１７頁の「５啓発活動の強化」の「（５）転入者への啓発強化」に出てくるだけだ。実際に何をやるのか見えてこない。具体的に転入者に対してこうするということを載せることが大切ではないか。
林委員	１７頁の「（５）転入者への啓発強化」という計画項目がありながら施策では「広報媒体活用による周知」に含まれてしまっている。具体

	的にどういう施策を採るのか表に載せるべきだ。
渡辺会長	２８年度計画では具体的に書かれている。まとめたほうが良いのか、個別に書くほうが良いのか。
石田委員	まとめるのは有効だと思う。「転入者へ啓発強化」は具体的にしたほうが良いかも知れない。
林委員	恐らくこれを作る段階で余りアイディアがなかったので書き込めなかったのではないか。
渡辺会長	去年と同じように挙げておくことも可能だったと思うが、敢えてまとめた。
石田委員	啓発活動というのは、数年は目標として掲げておくのは良いが、活動が定着化すれば一括して中に入れるのが良いと思う。制度として作るのであれば、その項目は特記したほうが良い。減量キャンペーンＣとなっているが、ごみの量が増えないために歯止めをかけていくキャンペーンだから、極端に増えていなければＣという評価である筈がない。項目によって評価の仕方が違うし、誤解を招いて見かけの点数が悪くなるような項目は、具体的に評価する項目にならないようにまとめたり、外して、欄外に維持するものの、コメントを付ければ項目の抜けはなくなると思う。
岡山副会長	普及啓発に関する取り組み・施策というものは、発生抑制でもリデュースでもリサイクルでも全ての所に持っていくものが入っている。私たちがやることに、これはリサイクルの普及啓発にという考え方では駄目だった。市報においてはリサイクルに何回とか、そういうことの目標値になっている。しかし、それは煩雑過ぎるだろうということで、今回は普及啓発部分が減っている。５のところの普及啓発活動の強化で啓発活動の施策が全部集約されれば良かった。逆に５のところは元に戻しても良いのではないかと思う。
林委員	啓発活動の強化は、最優先項目だと思う。もう少し、何をやれば良いのか議論する必要がある。
渡辺会長	目標設定の値に関して何かあれば挙げて頂きたい。今のところ、人口推計が決まっていないので、具体的な数値にはなりにくいところがあるが、人口推計が出てくれば、それに目標の一人当たりの量を掛けて数値が入ることになる。その辺についても何かあれば挙げて頂きたい。
杉本委員	１９頁の「災害発生時の対応に向けた整備」のところだが、民間との連携のような対策を図っておけば、災害時にはそこに入れることが

	可能かもしれない。災害時に最初に問題になるのは、生ごみではないかと思う。時間やお金がかかる堆肥化ではなく、２４時間で生ごみがなくなる消滅型でやる方法もある。それであれば緊急的に生ごみを処理できると思う。そういうことをここで検討すべきだ。
岡山副会長	災害廃棄物処理計画を作るときには、専門に議論する場が設けられると思う。日頃からの対策という観点でいうと、ガイドラインの中には、民間企業や事業者との連携を作っておくということが入っている。
渡辺会長	今までのごみの出し方から推測して数値を設定するのが、普通の計画の立て方だ。しかし、本市の場合は、状況に関わらずごみを減らすということを示さなければならないということが先にあって、そこから数値が出ている。他市に処理をお願いしているという事情もあるので、当面はこれを継続していかなければならないと思う。
吉田委員	キャンペーンによって、こういう効果があったとか、数値化して縦軸横軸で表せないのか。
渡辺会長	数値として出てくるのは、収集量の実績になる。各収集項目に対して実績量があるので、それを精査する必要はあると思う。しかし、どの施策で増えたか減ったかというのは難しい。
岡山副会長	例えば、生ごみ処理機の補助を出しているが、それがどれだけ減量に効果があったか、どう評価するのかというのは難しい。ある市では、補助を受けた全員に対してアンケートを取って、処理機を使っているのであれば、どの位出しているのか、というところまで調査して初めて、これだけ乾燥しただろうとか、減量しただろうという推計が可能になる。その調査を全ての項目で行うのは難しい。
吉田委員	例えば、前年に対して３ｇ減った場合、何故３ｇ減ったか分るのか。
石田委員	絶対量が目標の２倍３倍あれば、ピンポイントで絞ってその効果を出せるが、小金井市では今極限まで減量してきているので、因果関係を追究するのは不可能だろう。
杉本委員	一例として、燃やしていた剪定枝を別に収集することによって、ごみ減量が進んでいるデータがある。今、家庭系の燃やすごみは僅かに減っているが、３ｇ近く減らす為には、大きなところに目をつける必要がある。剪定枝や生ごみは重いので効果がある。それを減らすというところに着眼すれば減らせるのではないか。生ごみの殆どが水分だ。その水分を燃やすということになれば、水蒸気や炭酸ガスを出すことになる。一方、バイオでやれば、水蒸気や炭酸ガスは出るが熱は余り出ない。その結果、１年間でどうなるかということをここに載せても良いのではないか。

審議過程（主な発言等）

林委員	紙おむつは、推定では年間９００ｔ出るようだ。重さもあるので、可燃ごみに回さないだけでも減らすことはできる。
渡辺会長	リサイクル系は、そういう施策はあり得るかと思う。しかし、リデュースのほうでは、細かく少しずつということになる。
林委員	１０年間で４０ｇ、年間４ｇずつ減量する目標を設定しているが、毎年到達できていない。しかし、結果的に全国１位になっているので、数値的にどうやって現状を維持するか。それにはキャンペーンなどの広報活動が重要になってくる。 また、私が作った資料の１頁の表の中に「補助金交付要綱の整備による大型生ごみ処理機購入補助」が今までの評価では、進捗も効率もＣだ。それが、２９年度１６頁にも「補助金交付要綱の整備による大型生ごみ処理機購入補助　年１件交付」とある。これをどうするのか議論する必要がある。
岡山副会長	この部分は昨年もかなり議論した。目標３に対してずっと応募がなかった。しかし、止めてしまうと予算が取れなくなって消えてしまう。消してしまうよりは落として残していくものもある。
林委員	２９年度の予算を立案するに当たっては、他のところにお金を付けた施策は考えられないのか。
岡山副会長	あり得ると思うが、一度消してしまうと、今後どこかの団地などが付けたいと言ったときには、補助金はなくなってしまう。
山田委員	予算がないと話せないというのは本末転倒だと思う。
清水委員	施策の評価を数値化しにくいという問題だが、特に啓発キャンペーンが減量にどう結びついたかは難しい。アンケート調査には、紙で行う場合と直接電話を掛けて行う場合がある。サンプル数が多くなくても、統計学的に良い評価が出てくるので、一度電話でヒアリングを行っては如何か。方向性が掴めるならば継続してやれば良い。
林委員	対象はどのようにイメージしているのか。
清水委員	商工会では、コンサルティング業者に依頼し、どの位買い物に来るのかを、４～５００人に電話で問い合わせをして、結果を集積して、傾向・分析した経験がある。良いサンプルになった。
渡辺会長	直近では、市民アンケートや意識調査をいつやったのか。
小野ごみ対策課長	家庭用生ごみ処理機に関しては、紙ベースで毎年アンケート調査を

	行っている。紙なので返信して貰えない場合が多い。
清水委員	紙だと関心のある人からしか返信が来ないので、偏った傾向・分析になる。大切なのは啓発しても無関心な人がどの程度いるのかを掴むことで、直接電話で聞き取りをするのが良いのではないか。
渡辺会長	来年度の取り組みの中にそれを入れるという提案だ。
林委員	毎年生ごみ処理機のアンケートをしているということだが、私は４年前に購入して１回しかアンケート調査は来ていない。
小野ごみ対策課長	２年前に購入した人が対象である。
林委員	個人的にはとても良いので他の人にも薦めたい。しかし、アンケートが来ないので、発信のしようがない。２年に限定しなくても良いのではないか。勿論、関心のある人しか回答しないので、他の方法が必要だと思う。
岡山副会長	２年間継続して使っている人はどの位いるのか。
小野ごみ対策課長	今、データを持っていないので次回用意する。
杉本委員	補助を受けるときにアンケートに回答することを義務付けできないのか。また、大型生ごみ処理機は、何故、１件も申請が来ないのか。
小野ごみ対策課長	平成２６年に補助要綱を作って募集しているが、今のところゼロ件だ。２０世帯以上集まれば、家庭用生ごみ処理機と同じ程度の負担で済むという前提で募集している。マンションに関しては、個別に購入する人は多くない。マンションをターゲットに補助金要綱を作った。新しくできるマンションに関しては、宅地開発等指導要綱の中の環境配慮指針で、大型生ごみ処理機を設置する場所を設ける努力義務を課している。マンションを購入した人全員が参加すれば経費も安くなるし、家庭から生ごみが出ない。しかし、なかなかそこまで行かない。一方、地域に関しては、やりたい人が多いが置く場所がない。電気代や保守・点検、修繕代は発生するが、２０世帯以上であれば、家庭用生ごみ処理機利用の負担と変わらない。
石田委員	マンションでは、誰かが管理しなければならないのが問題だ。
小野ごみ対策課長	この点は議会でも議論されており、市としても相談して頂ければ、その地域に合った生ごみ処理機を紹介することもできるし、管理の方法に関してもノウハウを持っているので説明ができるという投げ掛けをしている。しかし、１件も申請がない現状なので、その部分が一番大きな課題だということは認識している。

審議過程（主な発言等）

岡山副会長	この件については意味がないので削除してはどうかという意見もあるだろうが、C評価を削除ではなくA評価に近づけるにはどうすれば良いか考えるのであれば、これは一つの回答だと思う。
杉本委員	問題の原因を調査して、解決する方向に持っていくことが大事なのではないか。
大江委員	ＰＤＣＡのＡの段階の評価は難しい。行政は施策に対する評価を施策項目で評価している。計画項目、その上位の施策のカテゴリーとの関係が繋がっていないと感じるので、評価項目の審議会委員の評価が両極端になってしまう。どこに着目して進捗していると考えるのか、計画項目の上位と比べてゼロに近いと考えれば１になってしまう。調査が必要なのは分かるが、お金と時間が掛かり、どこの時間目標に反映させるのかということで限られてくる。もっとコストパフォーマンスの視点を入れていかないと重点化ができないと思う。細かくやっていくとその次元では全部重要なことになるし、網羅的にしないと納得しない。小委員会で生ごみ関係の方向付けが出てくれば、項目の進捗に繋がると思う。アンケートは、「随時」が出ざるを得ない。最後のところで全部把握できる評価項目にできれば良い。小委員会での議論に期待している。
林委員	コストパフォーマンスということで収集の仕組みを含めた議論はしないのか。例えば、新聞は毎週１回収集するなど、仕組みそのものが減量に繋がるかどうか分らないが、コストと言う意味では重要になると思う。
大江委員	今まで非常事態宣言を出しながら変わって来ている。しかし、来年から直ぐ変えられるわけではない。収集体制の問題は、長期的に小委員会などでやるべきだ。年度計画では出てこない。難しい検討事項だ。
林委員	基本計画の中で決まっているということではないのか。
大江委員	見直しはできる。
渡辺会長	コストの話も含め、継続して審議していきたい。 それでは、カレンダーの選考結果を発表して頂きたい。
穐山清掃係長	（ごみ・リサイクルカレンダー表紙絵の選考結果発表）
渡辺会長	それでは、事務局から連絡事項はあるか。
玉井減量推進係主任	次回の審議会は、１１月２２日（火）１５時から中間処理場で開催する予定である。

審議過程（主な発言等）

渡辺会長	それでは、これで終了とする。

以上